

資料 . 1

平成23年度社会実験中間報告

佐渡市地域公共交通活性化協議会

1. 高齢者の割引サービス

1. 事業概要

		平成 21 年度 (H21.7.1～H22.3.31)	平成 22 年度 (H22.4.1～H23.3.31)	平成 23 年度 (H23.4.1～H24.3.31)
目的		高齢者の路線バス運賃を低廉化することにより、路線バスを利用した外出支援と外出機会の増加を図る。		
対象者		佐渡市内在住の 75 歳以上の方		
サービス詳細	割引内容	路線バスを 1 乗車 200 円で乗車できる。		
	制限	1 ヶ月で 4 回 (例：4 月に使える券が 4 枚)	3 ヶ月で 12 回 (例：4～6 月に使える券が 12 枚)	
	利用方法	利用券を事前購入 新潟交通佐渡(株)窓口 にて (5 ヶ所)	サービスを佐渡市及び新潟交通佐渡(株)にて申請 (19 ヶ所) 路線バス利用時に 200 円を支払い精算する。	

2. 利用状況表

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	計
利用補助券数	4,743	4,378	4,269	4,905	4,296	3,973	26,564
利用者数	1,468	1,474	1,449	1,450	1,400	1,427	2,450
平均使用枚数	3.2	3.0	2.9	3.4	3.1	2.8	-

H22.9 月末 利用補助券枚数：23,195 枚

表 過年度実績 (各月の利用者数)

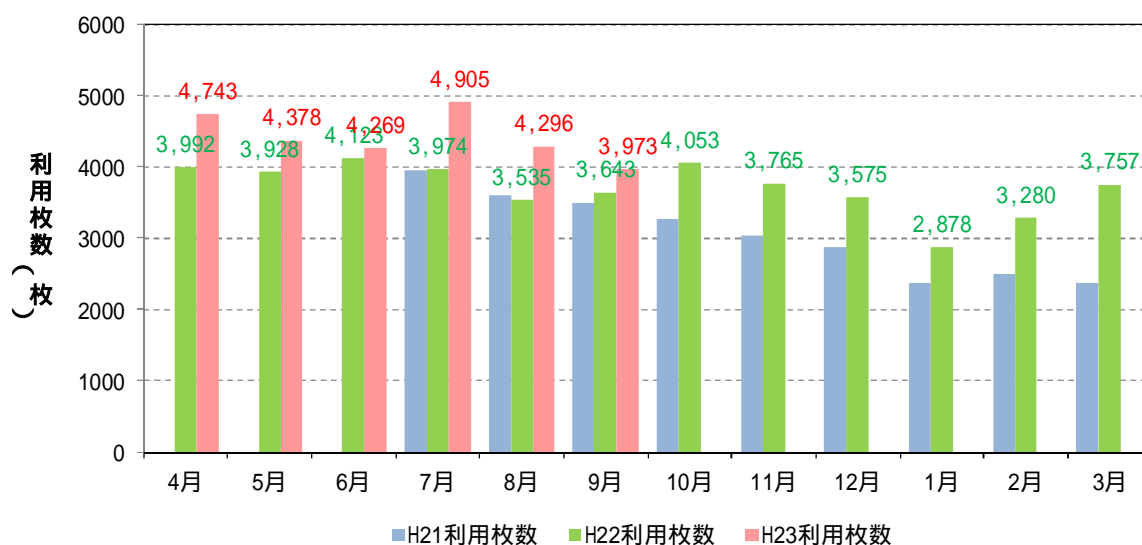
H22 年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
利用補助券数	3,992	3,928	4,123	3,974	3,535	3,643	4,053	3,765	3,575	2,878	3,280	3,757	44,503
利用者数	1,472	1,420	1,485	1,470	1,366	1,349	1,447	1,392	1,354	1,137	1,238	1,337	2,632
平均使用枚数	2.7	2.8	2.8	2.7	2.6	2.7	2.8	2.7	2.6	2.5	2.6	2.8	

H22.4.1～H23.3.31 のデータ (一部推計)

H21 年度	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
利用補助券数	3,952	3,593	3,495	3,270	3,029	2,883	2,365	2,500	2,365	27,452
利用者数	1,162	1,125	1,123	1,123	1,108	910	757	813	956	2,210
平均使用枚数	3.4	3.2	3.1	2.9	2.7	3.2	3.0	3.1	2.5	

H21.7.1～H22.3.31 のデータ

【過年度との利用者の推移の比較】



補助券は4月～9月年間で26,564枚が使用されており、利用対象者〔75歳以上人口：14,212人（H23.9.30現在）〕に対し、2,450人（17%）が利用している。

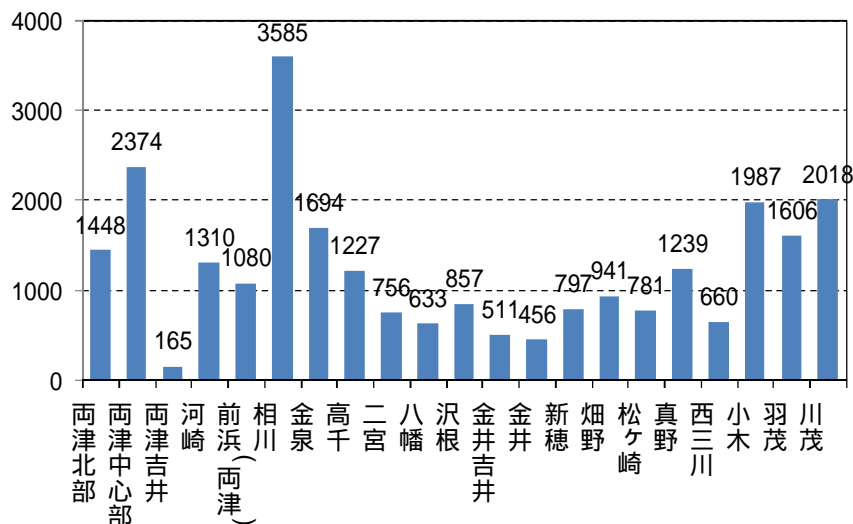
利用者の比率：17%は、昨年の19%と比較すると低いが、今後冬季を迎え、利用者が増えると考えられる。

総利用枚数、平均使用枚数ともに、昨年の同月と比較すると、増加している。

3. 地区別利用状況

地区別の利用状況は、以下の通りであり、「相川」の方に多く利用されている。一方、昨年度と同様に「両津吉井」、「金井」「金井吉井」といった市中心部の方の利用は少ない。

地区別の利用枚数（枚）



今年から変更された、12枚/3カ月の利用枚数の制限であるが、12枚/3カ月を使用したことがある人は、相川地区で最も多く85人である。

使いきったことがある人の割合では、「両津北部」「西三川」で割合が高くなっているが、約40%である。昨年度までの4枚/月の使いきりの割合(最大75%：両津北部)と比べると低くなっており、バスの利用頻度に対応できていると考えられる。

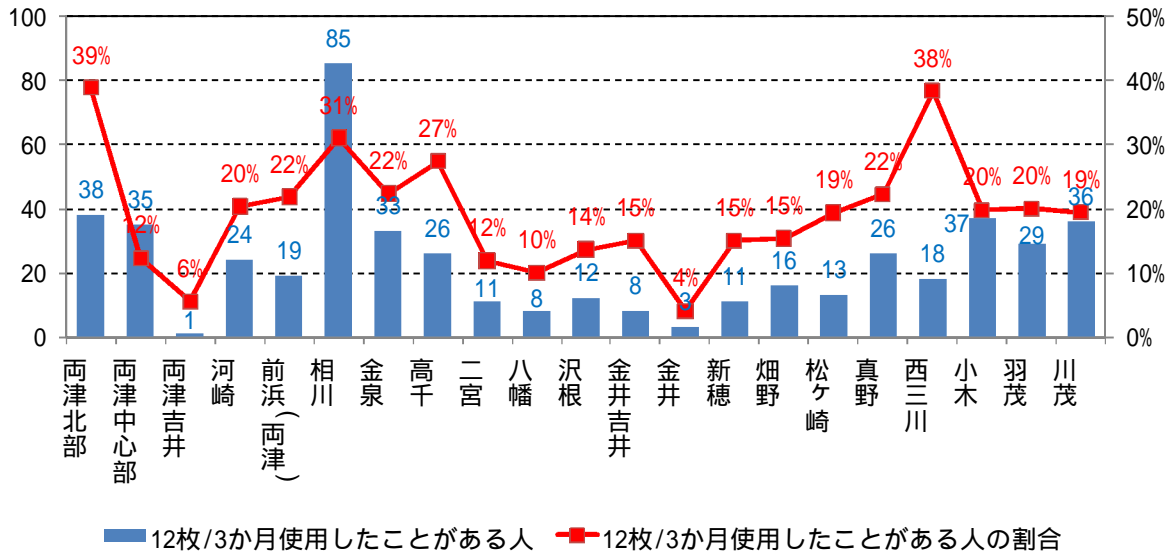
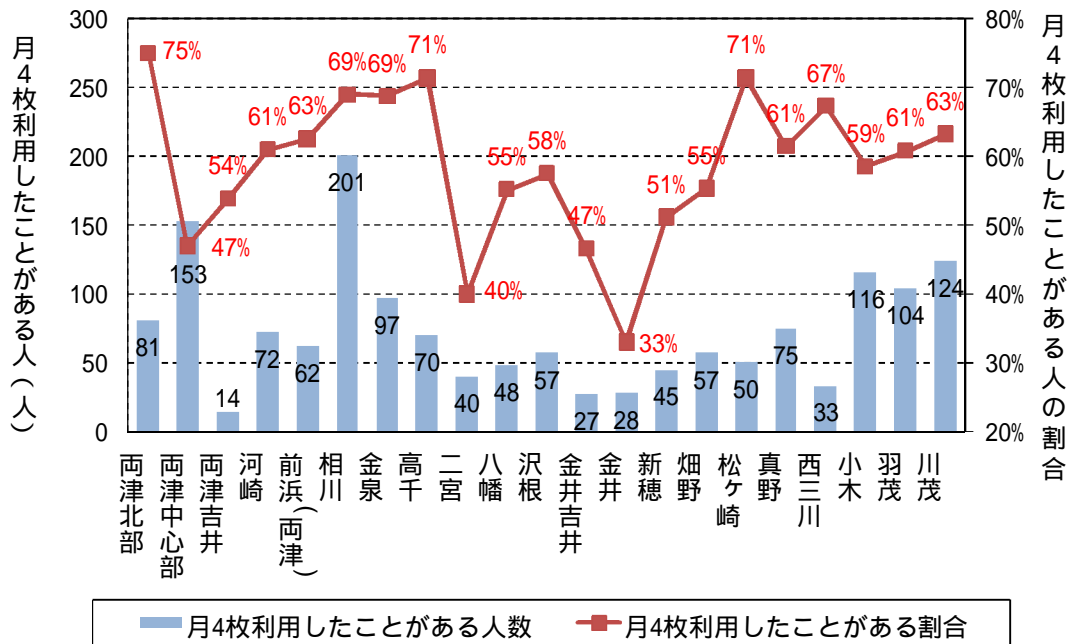


表 平成22年度地区別利用割合データ



資料データ：4月1日～3月31日

4. 利用者の変化の内訳

昨年と比較すると、まだ半年のため、利用者は少ない状況である。また、継続して利用している人は、2,063人おり、そのうち、回数が増加した人は1,328人である。

今年度より、利用制限を1ヶ月から3ヶ月へ変更した効果が、利用回数増加者数の増加にあらわれている。

乗れなくなったり、乗らなくなった人が569人に対し、新規利用者は387人である。

9月末時点で今年度24枚以上利用している人は、170人(7% = 170/2453)である。

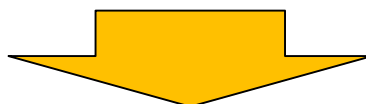
	平成21年度	平成22年度	平成23年度
期 間	平成21年7月~平成22年3月	平成22年4月~平成23年3月	平成23年4月~平成23年9月
対象者(75歳以上)	14,755人	14,188人(H23.3.31現在)	14,212人(H23.9.30現在)
申請者		3,396人	3,705人
利用者数	2,210人(15%)	2,632人(19%)	2,450人(17%)
(うち新規利用数)	265人	1,128人	387人
(うち利用回数増)	389人	786人	1,328人

表 昨年からの利用者数の変化

	平成22年度 (H22.4.1~ H23.3.31)	平成23年度 (H23.4.1~ H23.9.30)	継続して利用している人の内訳	
継続して 利用している人	2,063人	2,063人	回数が増加した人	1,328人
			回数が減った人	636人
			回数が変わらない人	99人
乗らなくなった人 乗れなくなった人	569人 ²		X	
新規利用者		387人		
計	2,632人	2,450人 ¹		

1 運賃割引申請者数：3,705人(H23.9.30現在)

2 死亡者0人、転出者0人、H23未利用者569人(未登録53人)



経年的に利用者数は増加しており、**高齢者の外出支援及び公共交通の利用促進**に効果を与えていると考えられる。

5 . 収支状況

<平成 22 年度高齢者割引サービスによる欠損額>

アンケート結果から求めた平均運賃と、地区別の月平均利用枚数より、各月の平均欠損額を試算した結果、H22 は H21 より約 4 万円/月、欠損額が減少している。

表 月平均欠損額の試算

		平成 21 年度	平成 22 年度
平成 21 年度欠損額 ()		- 1,108,283 円/月	
増収	利用回数の増加		116,695 円/月
	新規登録者		157,751 円/月
	計 ()		274,446 円/月
減収	利用回数の減少		- 92,232 円/月
	H21 利用で H22 未利用		- 65,998 円/月
	死亡		- 9,156 円/月
	転出		- 2,045 円/月
	新規利用対象者		- 60,462 円/月
	計 ()		- 229,893 円/月
増減計	+		44,554 円/月
平成 22 年度欠損額 (+ +)			- 1,063,729 円/月

H22 年度：月平均利用枚数・・・3,708 枚

H21 年度：月平均利用枚数・・・3,050 枚

<今後に向けて>

H21 年度と比較し、のべ利用数が月平均約 650 枚増加したことにより、4 万円の増収効果があったが、それでも月平均 1,063 千円の減収となっている。

割引サービスによる欠損額は利用者を増やしても解消される見込みがない。

収支改善策としては逆行しており持続可能な施策とは言えないが、高齢者の外出支援策の観点から効果がある。よって、あくまでも利用促進策及び福祉施策として予算を計上し実施すべきか検討が必要。

2. 直行便・乗換便(病院乗り入れ)サービス

年間 245 便中 123 ~ 124 便運行 (進行状況 50%) での中間実績データ

1. 事業概要

目的・経過概要	<p>高齢者の割引サービスの実施により、利用目的の多くが通院であることが判明した。また、遠隔地の方は市内中央の病院・商業地まで必ず便の乗換えが必要であり、1回あたりの割引券の使用枚数が市内中央在住の方と比べ多くなり、すぐに利用制限に到達してしまう問題が発生した。</p> <p>以上の点から、地域格差を解消し、更なる利用促進を図るため病院までの直通便や乗換サービスを平成 22 年度より実施。平成 23 年度は乗換サービス内容を拡大。</p>
直通便とは	<p>今まで乗り換えが必要だった便を中央の病院や商業地まで延伸運行。</p> <p>乗換の解消により、割引券が 2 枚 1 枚で目的地まで行けるようになった。</p>
乗換サービスとは	<p>路線バス 1 便目は高齢者の割引サービスを利用。乗換える方はその際に乗換券を交付してもらい、2 便目は乗換券のみで料金は支払わなくてもよい。</p>

2. 内海府線 (H23.4.1 ~ 9.30)

(1) 佐和田方面行き

佐和田方面行き 真更川 5:58 発 (真更川 ~ 両津病院 ~ 佐渡総合病院 ~ 佐和田)					
		平成 23 年度 (H23.4.1 ~ 9.30)	平成 22 年度 (H22.4.1 ~ 9.30)	対前 年比	平成 22 年度 (H22.4.1 ~ H23.3.31)
利用数	利用者数	2,065 人	1,606 人	128.5%	3,102 人
	1 便あたりの利用数	16.7 人 (123 便)	12.9 人 (124 便)		12.6 人 (245 便)
直行による 乗り越し及び 乗換乗車数	乗り越し人数 (A)	408 人	231 人	176.6%	560 人
	監督署からの乗車数 (B)	242 人	78 人	310.2%	238 人
	うち東海岸線からの乗換え数 (うち乗換券利用数)	134 人 (95 人)	34 人	394.1%	135 人
監督署前 ~ 佐渡総合病院	乗車数	257 人 (12.4%)	98 人 (6.1%)	262.2%	259 人 (8.3%)
	降車数 (C)	107 人 (5.1%)	41 人 (2.5%)	260.9%	85 人 (2.7%)
降車数	両津病院降車数	139 人 (6.7%)	128 人 (7.9%)	108.5%	228 人 (7.3%)
	佐渡病院降車数 (D)	739 人 (35.7%)	327 人 (20.3%)	225.9%	844 人 (27.2%)
	うち監督署以降の佐渡病院利 用者 (D - (A + B))	89 人以上	18 人以上		46 人以上
	佐渡総合病院 ~ 佐和田 降車数 (E)	128 人 (6.1%)	39 人 (2.4%)	328.2%	109 人 (3.5%)
両津地区以降 (延伸部分) の降車数 新規運行地域への需要 (C + D + E)		974 人 (47.1%)	407 人 (25.3%)	239.3%	1,038 人 (33.4%)

両津市街地方面行き 真更川 9:10 発 (真更川～両津病院～監督署前)					
		平成 23 年度 (H23.4.1～9.30)	平成 22 年度 (H22.4.1～9.30)	対前 年比	平成 22 年度 (H22.4.1～H23.3.31)
利用数	利用者数	1,142 人	1,401 人	81.5%	2,622 人
	1 便あたりの利用数	9.2 人(124 便)	11.2 人(124 便)		10.7 人(245 便)
降車数	両津病院降車数	147 人(12.8%)	173 人(12.3%)	84.9%	321 人(12.2%)

(2)真更川方面行き

真更川方面行き 監督署前 12:15 発 (監督署前～両津病院～真更川)					
		平成 23 年度 (H23.4.1～9.30)	平成 22 年度 (H22.4.1～9.30)	対前 年比	平成 22 年度 (H22.4.1～H23.3.31)
利用数	利用者数	1,729 人	1,812 人	95.4%	3,306 人
	1 便あたりの利用数	13.9 人(124 便)	14.6 人(124 便)		13.4 人(245 便)
乗車数	両津病院乗車数	186 人(10.7%)	165 人(9.1%)	112.7%	325 人(9.8%)

真更川方面行き 佐和田 14:22 発 (佐和田～佐渡総合病院～両津病院～真更川)					
		平成 23 年度 (H23.4.1～9.30)	平成 22 年度 (H22.4.1～9.30)	対前 年比	平成 22 年度 (H22.4.1～H23.3.31)
利用数	利用者数	1,963 人	1,821 人	107.7%	3,325 人
	1 便あたりの利用数	15.8 人(124 便)	14.6 人(124 便)		13.5 人(245 便)
佐渡総合病院 ～監督署前	乗車数(A)	140 人(7.1%)	48 人(2.6%)	291.6%	144 人(4.3%)
	降車数	183 人(9.3%)	47 人(2.5%)	389.3%	168 人(5.0%)
乗換数	東海岸線への乗換え数 (乗換券利用数)	(4 人)			
乗車数	両津病院乗車数	80 人(4.0%)	101 人(5.5%)	79.2%	195 人(5.8%)
	佐渡病院乗車数(B)	277 人(14.1%)	111 人(6.0%)	249.5%	286 人(8.6%)
	佐和田～佐渡総合病院 乗車数(C)	89 人(4.5%)	42 人(2.3%)	211.9%	147 人(4.4%)
両津地区以降(延伸部分)からの乗車数 新規運行地域からの需要(A+B+C)		506 人(25.7%)	201 人(11.0%)	251.7%	577 人(17.3%)

内海府線の病院乗入れサービスの利用状況は以上ようになっており、「両津病院」「佐渡病院」とも乗降者が多く、「両津病院」は「佐和田行」「真更川行」とも 200 人以上の利用がある。昨年と比較すると、「佐渡病院」の利用者の割合が高くなっており、特に「佐和田行」で 35.7% (昨年 20.3%) が佐渡病院で下車している。

3. 東海岸線 (H23.4.1 ~ 9.30)

(1) 両津市街地方面行き

両津市街地方面行き 多田 6:33 発 (多田 ~ 両津病院 ~ 両津高校前)					
		平成 23 年度 (H23.4.1 ~ 9.30)	平成 22 年度 (H22.4.1 ~ 9.30)	対前 年比	平成 22 年度 (H22.4.1 ~ H23.3.31)
利用数	利用者数	1,964 人	1,623 人	121.0%	3,298 人
	1 便あたりの利用数	15.8 人 (124 便)	13.0 人 (124 便)		13.4 人 (245 便)
降車数	監督署前降車数	826 人 (42.0%)	211 人 (13.0%)	391.4%	652 人 (19.7%)
	(うち内海府線への乗換数)	134 人	34 人	394.1%	135 人
	(うち乗換サービス利用者数)	95 人			
	両津病院降車数	108 人 (5.4%)	113 人 (6.9%)	95.5%	223 人 (6.7%)

両津市街地方面行き 岩首 8:00 発 (岩首 ~ 両津病院 ~ 春日町)					
		平成 23 年度 (H23.4.1 ~ 9.30)	平成 22 年度 (H22.4.1 ~ 9.30)	対前 年比	平成 22 年度 (H22.4.1 ~ H23.3.31)
利用数	利用者数	1,230 人	1,385 人	88.8%	2,599 人
	1 便あたりの利用数	9.9 人 (124 便)	11.1 人 (124 便)		10.6 人 (245 便)
降車数	両津病院降車数	194 人 (15.7%)	197 人 (14.2%)	98.4%	395 人 (15.1%)

(2) 岩首方面行き

岩首方面行き 春日町 12:02 発 (春日町 ~ 両津病院 ~ 岩首)					
		平成 23 年度 (H23.4.1 ~ 9.30)	平成 22 年度 (H22.4.1 ~ 9.30)	対前 年比	平成 22 年度 (H22.4.1 ~ H23.3.31)
利用数	利用者数	1,246 人	1,278 人	97.4%	2,402 人
	1 便あたりの利用数	10.0 人 (124 便)	10.3 人 (124 便)		9.8 人 (245 便)
乗車数	両津病院乗車数	94 人 (7.5%)	77 人 (6.0%)	122.0%	157 人 (6.5%)

岩首方面行き 春日町 15:07 発 (春日町 ~ 両津病院 ~ 岩首)					
		平成 23 年度 (H23.4.1 ~ 9.30)	平成 22 年度 (H22.4.1 ~ 9.30)	対前 年比	平成 22 年度 (H22.4.1 ~ H23.3.31)
利用数	利用者数	972 人	905 人	107.4%	1,767 人
	1 便あたりの利用数	7.8 人 (124 便)	7.2 人 (124 便)		7.2 人 (245 便)
乗車数	監督署前乗車数	207 人 (21.2%)	96 人 (10.6%)	215.6%	252 人 (14.2%)
	(うち乗換サービス利用者数)	4 人			
	両津病院乗車数	68 人 (6.9%)	31 人 (3.4%)	219.3%	74 人 (4.1%)

東海岸線の病院乗入れサービスの利用状況は以上ようになっており、特に「両津行」では「両津病院」での降車が 302 人と多く利用されている。一方で、「岩首行」での「両津病院」での乗車は 162 人である。「両津病院」は周辺に商店街があるため帰宅時に買い物等を行い「両津病院」以外の停留所を利用していることが、他の動態調査等からも推測される。

昨年と比較し、利用状況の傾向に大きな変化はない。

4. 乗換えサービス (H23.4.1~9.30)

(1)H22 年度からの変更点

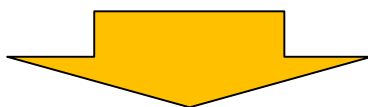
	平成 23 年度	平成 22 年度
乗換え位置 (場所) 乗換え場所の拡大	乗換え区間 乗換の可能な区域を指定し、その区域内であれば乗換えが可能。	乗換えポイント 定められた停留所のみ乗換を可能とした。
乗換え対象便 (時間) 乗換え対象便の拡大	乗換え可能便 (時間) を指定 2 ~ 3 便を対応	乗換え可能便 (時間) を指定 1 便のみ対応

(2)利用状況

	平成 23 年度 (H23.4.1~9.30) (A)	平成 22 年度 (H22.4.1~9.30)	対前 年比	対象 者数 (B)	利用者の 割合 (A/B)	平成 22 年度 (H22.4.1~H23.3.31)
前浜線 赤泊線	141	58	243.1%	1,023	13.7%	185
東海岸線 内海府線	99	45	220.0%	1,767	5.6%	136 ジャンボタクシー 東海岸線(8) ジャンボタクシー 内海府線(3)
度津線 小木線	17	16	106.2%	330	5.1%	26
金田新田線 小木線	4	0 外三崎線 小木線 (H22.4.1~9.30)	%	30	13.3%	1 外三崎線 小木線(0) (H22.4.1~9.30) 金田新田線 小木線(1) (H22.12.6~H23.3.28)
計	261	119		3,150		348

対象者数：補助券より対象便と沿線地区（住所）より試算（H22 年度試算データ）

乗換えサービスの利用状況は、以上ようになっており、261 枚(H23.9.30 現在)が利用されている。経年的に施策が浸透してきたことや、割引補助券の使用方法が変わったことで、合計枚数は、昨年の同月 6 カ月ベースの枚数 119 枚を大幅に超えている。



運賃割引サービスと同様に「乗換券」の利用者が増加し、**高齢者の外出支援及び公共交通の利用促進**に効果を与えていると考えられる。

5. 海府線 (H23.4.1～9.30)

佐渡総合病院行き 岩谷口 6:40 発		岩谷口行き 佐渡総合病院 13:57 発	
利用者数	4,404 人	利用者数	1,988 人
1 便あたり利用数	35.5 人 (124 便)	1 便あたり利用数	16.0 人 (124 便)
鍛冶町～金井間降車数	10 人 (0.2%)	鍛冶町～金井間乗車数	90 人 (4.59%)
佐渡総合病院降車数	689 人 (15.6%)	佐渡総合病院乗車数	268 人 (13.4%)

海府線の病院乗入れサービスの利用状況は以上ようになっており、特に「佐渡病院行」では「佐渡病院」での降車が 689 人と多く利用されている。この人数は、該当する便の利用者の 15.6% を占めている。

「岩谷口行」の乗車人員が、「佐渡病院前行」の乗車人員を大きく下回っているのは、診察内容により「帰り」の時刻が分散しているためであると考えられる。

3 ページの高齢者割引サービスの地区別利用状況を見ると、相川・金泉・高千地区でのバス補助券の限度枚数使用頻度が対前年度と比較し、69～71%が 22～31%に減少している。これは、海府線の佐渡総合病院までの延伸の影響（効果）によるものと推測される。

6. 小南線の佐渡中等教育学校前までの延伸に伴う検証

小南線 (H23.4.1～9.30)

両津高校行き 小木 6:55 発		小木行き 両津高校 18:39 発	
利用者数	3,764 人	利用者数	643 人
1 便あたり利用数	30.3 人 (124 便)	1 便あたり利用数	5.1 人 (124 便)
両津港降車数	485 人 (12.8%)	両津港乗車数	150 人 (23.3%)
両津高校降車数	303 人 (8.0%)	両津高校乗車数	93 人 (14.4%)

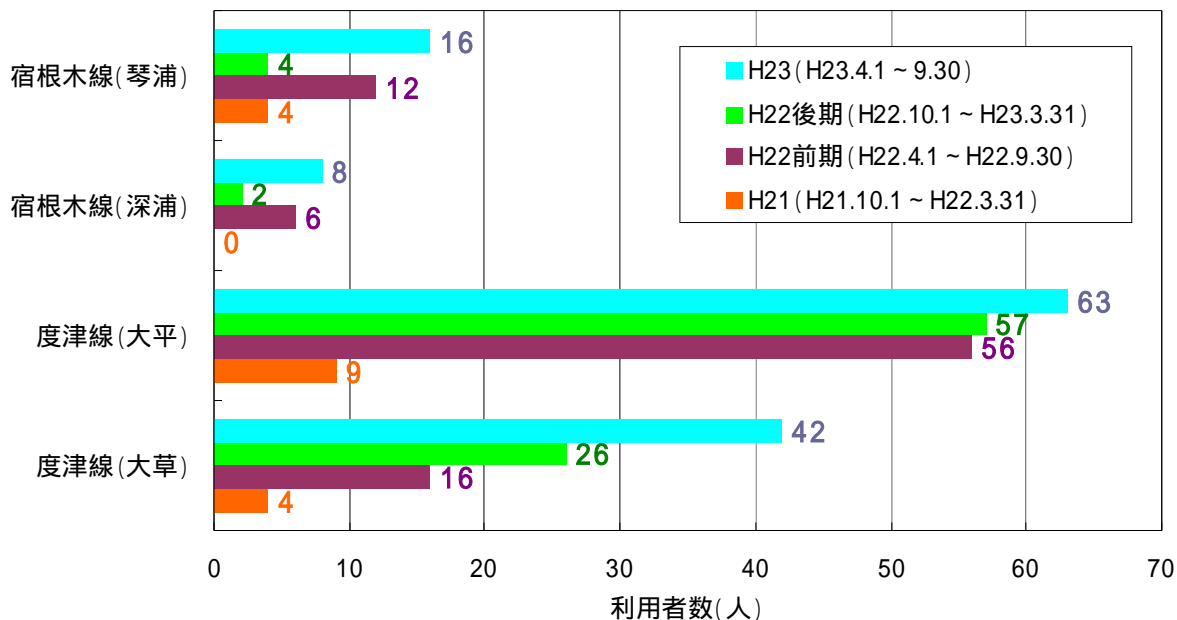
行き便に対して、帰り便の利用が極端に少ない。

小南線の佐渡中等教育学校（両津高校）までの延伸部分の利用状況は、以上ようになっており、特に「両津高校前行」では、始業時刻等がほぼ一緒であるため、利用者も多く、「両津高校前」での降車が 303 人となっている。この人数は、該当する便の利用者の 8% を占めている。

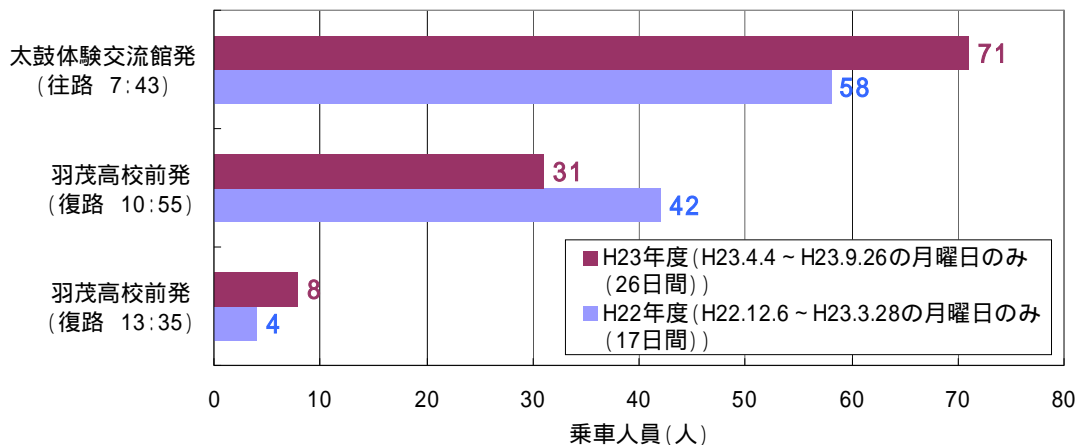
「小木行」の乗車人員が、「両津高校前行」の乗車人員を大きく下回っているのは、授業や課外活動等により「帰り」の時刻が分散しているためであると考えられる。

3. 南部地区運行サービス

1. 宿根木線・度津線（H21年度：デマンド H22年度以降：定時定路線）



2. 小木線（金田新田線）(H23.4.1～5.9、月曜日のみの曜日運行)



太鼓体験交流館発の便について、利用者数 71 人中 70 人 (98.5%) が金田新田から乗車。

1 便あたりの乗車人数は 2.7 人

羽茂高校前発 (10:55) の便について、利用者数 31 人中 30 人 (96.7%) が金田新田で降車。

1 便あたりの乗車人数は 1.1 人

羽茂高校前発 (13:35) の便について、利用者数 8 人中 3 人 (37.5%) が金田新田で降車。1 便あたりの乗車人数は 0.3 人

4. 観光二次交通の充実

1. 事業概要

路線バスを沿線観光地まで迂回・延伸運行させることにより、個人観光客の路線バス利用の促進を図る。前年度のアンケートでの要望から平成 23 年度は実施期間を拡大し検証。

2. 停留所別利用実態

路線	停留所	H23							H22 (7~11月)	H21 (7~11月)
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計		
本線	佐渡金山	99	411	132	320	1,070	263	2,295	1,384	1,736
	佐渡版画村	8	27	18	19	65	28	165	79	142
	相川博物館	1	25	15	10	51	10	112	75	138
南線 他	歴史伝説館	124	293	69	122	375	162	1,145	600	955
	尾畑酒造前	27	53	15	40	31	55	221	150	
	吉岡臨時	10	18	12	20	9	11	80	66	63
	国分寺	9	24	16	32	8	13	102	60	58
	妙宣寺	18	41	12	56	20	15	162	123	198
	大膳神社	5	10	6	11	22	13	67	59	103
七浦 海岸線	尖閣湾達者	22	67	16	71	161	63	400	261	252
	尖閣湾揚島	30	170	31	91	82	86	490	378	412
トキ の森シ ャトル	両津港	134	375	90	255	952	263	2,069	1,393	1,630
	椎崎温泉	8	27	1	1	45	6	88	54	73
	能舞台前	1	14	1	50	69	16	151	49	182
	瀧上温泉	20	30	17	51	158	54	330	140	193
	トキの森公園	148	392	84	230	902	273	2,029	1,401	1,554
小木線 宿根木 線	宿根木	13	61	32	46	98	67	317	305	170
	太鼓体験交流館	0	6	0	20	0	54	80	41	
	沢崎	7	12	18	14	9	18	78	81	52
	ゴールドパーク	13	108	8	83	213	110	535	46	398
計		697	2164	593	1,542	4,340	1,580	10,916	6,745	8,309

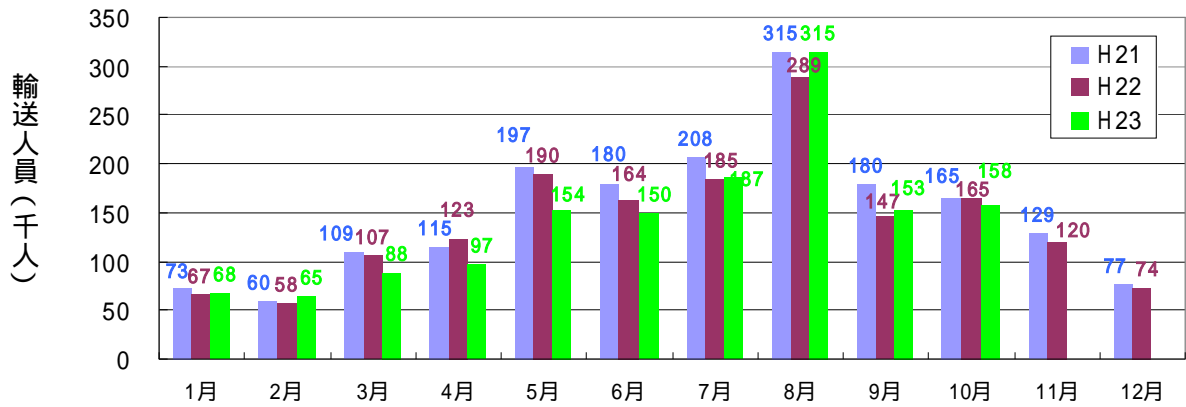
3. 月別利用実態

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
H23 年度	697 ²	2,164	593 ²	1,542	4,340	1,580	実証運行中		10,916
H22 年度				1,461	2,271 ¹	1,217	1,125	671	6,745
H21 年度				966	2,367	2,746	1,189	1,041	8,309

1. 昨年は8月以降おおさど丸のトラブルがあり、平年よりも少ないと考えられる。(13ページ航路輸送実績を参考)

2. 4月、6月は過去の月平均と比較して、利用が極端に少ない。

参考資料：佐渡航路の輸送実績（全航路）

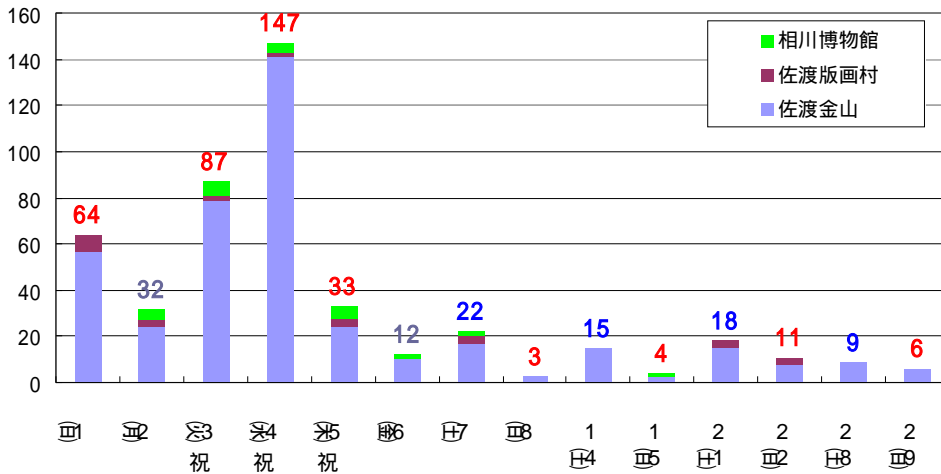


4. 平日運行の検証（5/2、5/6、8月）

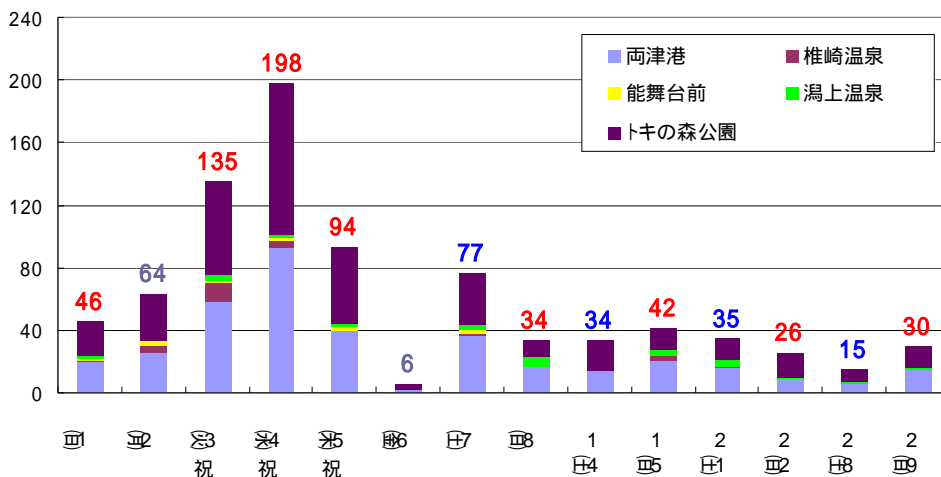
上記平日期間は本線、トキの森シャトルのみ運行。

(1) 5月（ゴールデンウィーク期間）

本線

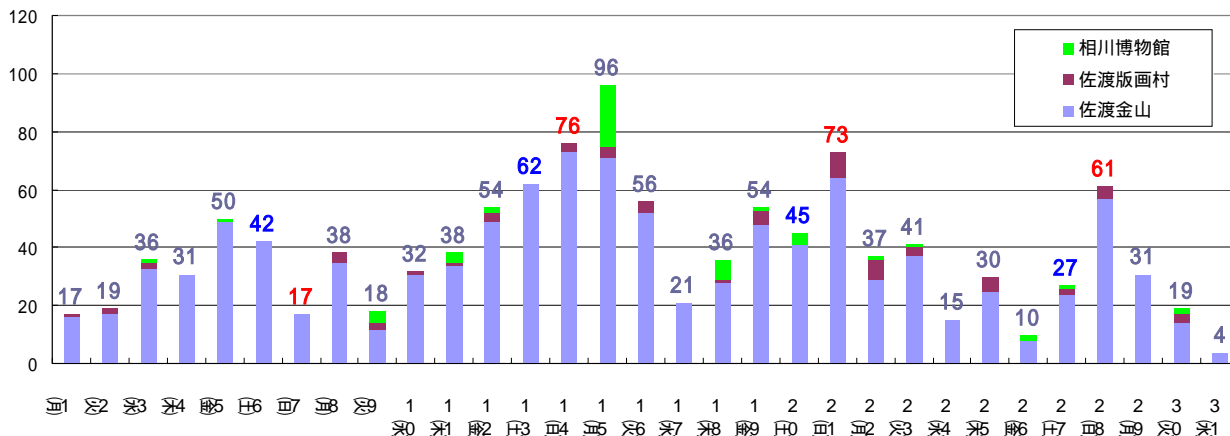


トキの森シャトル

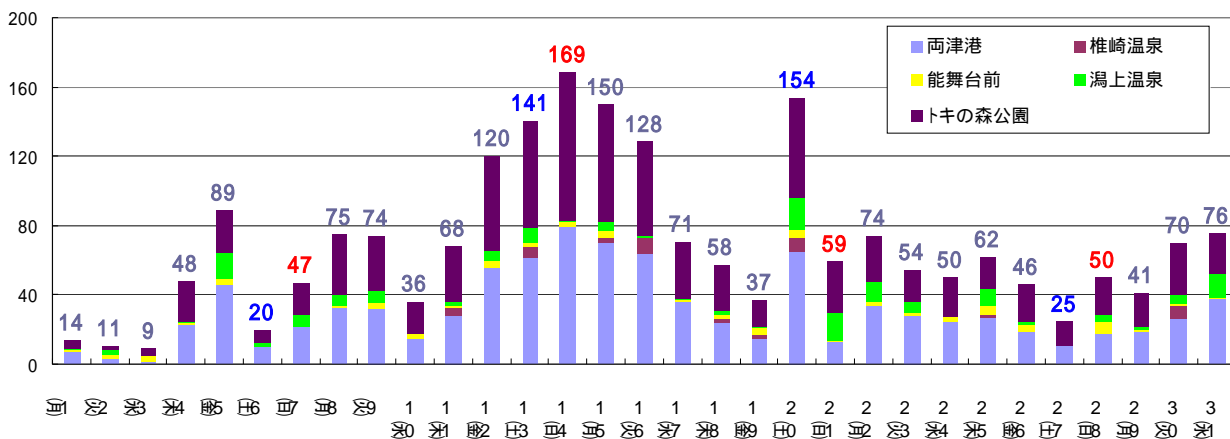


(2) 8月（夏休み期間）

本線



トキの森シャトル

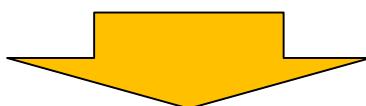


< 平日運行結果からの考察 >

5月のゴールデンウィーク期間（5/1～5/8）の実績数は、月の79%を占める結果となった。

ゴールデンウィーク期間における平日運行（5/2、5/6）の結果は、通常の土日よりは多かったが他の祝日と比べ極端に利用は低かった。

8月の夏休み期間における実績は全体的に高く、特にお盆（8/12～8/16）にかけては通常の2倍近い利用があった。これは観光客の他、帰省客の影響もあったと推測される。



観光客及び帰省客にターゲットを絞り、運行期間もゴールデンウィークや夏休み期間等の長期連休に限定した運行により効率化を図る。

5. 学生の運賃割引サービス

1. 夏休み 1 day フリー券の販売

販売枚数は合計 112 枚で、その内、個人で移動することがある中学生・高校生で 94 枚の売り上げがあった。

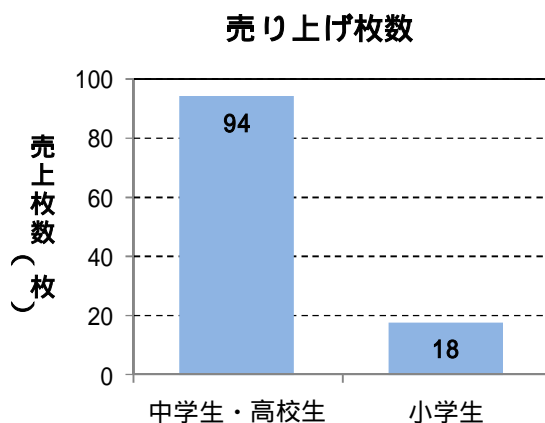
佐渡市の中学生・高校生を 3,400 人とする と 2.8% (94/3,400) に相当する。

佐渡市の小学生 3,100 人とする と 0.6% (18/3,100) に相当する。

(1)実施内容

実施目的	・市立小中学校の夏休み期間となる 7 月 23 日から 8 月 31 日まで、高校生以下の学生を対象に「夏休み 1 day フリー券」を特別料金とすることで新規利用の促進や利用拡大をする。									
対象者	市内在住の高校生以下の学生									
対象フリー券	夏休み 1 day フリー券									
実施内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>通常販売額</th> <th>学生割引額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大人（中学生・高校生以上）</td> <td>1,500 円</td> <td>1,000 円</td> </tr> <tr> <td>小人（小学生）</td> <td>750 円</td> <td>500 円</td> </tr> </tbody> </table>		通常販売額	学生割引額	大人（中学生・高校生以上）	1,500 円	1,000 円	小人（小学生）	750 円	500 円
	通常販売額	学生割引額								
大人（中学生・高校生以上）	1,500 円	1,000 円								
小人（小学生）	750 円	500 円								
販売窓口	・新潟交通佐渡(株)各営業所及び案内所。 なお、当日分に限り、路線バス車内でも購入できる。									

(2)売り上げ状況



6. ノーマイカーデー等の実施による公共交通利用促進

1. 実施概要

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
目的	輸送効率の良い路線バスや CO2 を排出しない自転車などの環境にやさしい交通手段を利用することにより、環境に対する島民意識を醸成するとともに公共交通への自発的転換を促すことを目的とする。		
対象者	行政職員、民間企業従業員 一般市民	佐渡市内でマイカー通勤をしている行政職員 及び民間企業従業員	
実施期間 (日数)	平成 21 年 11 月 2 4 日～27 日 (4 日間)	平成 22 年 11 月 24 日～30 日 (7 日間)	平成 23 年 7 月 25 日～30 日 平成 23 年 8 月 25 日～30 日 平成 23 年 9 月 25 日～30 日 (18 日間)
バス路線 時刻	バス路線とダイヤは通常から 変更なし	バス路線とダイヤは通常から 変更なし	バス路線とダイヤは通常から 変更なし
特殊項目	パーク＆ライドの実施 旧市町村別に、バス停の近くに 駐車場を用意することにより、 バスを利用しやすい環境を整備。 (バス停まではマイカーで。)	ノーマイカーデー特別運賃の実施 ノーマイカーデー参加者に 限り、期間中のバス運賃を 1 乗 車 200 円とし、バス利用の促進 を図る。	ノーマイカーデー特別運賃の実施 ノーマイカーデー参加者に 限り、期間中のバス運賃を 1 便日 1 乗車 200 円、2 便日以降は乗換券 で 100 円とし、バス利用の促進を 図る。
特典	協力した事業所については、企業名又は団体名の名称を佐渡市の HP に掲載する。 (エコ参加企業としての PR)		
実施結果 からの 課題点	・バス運賃の低廉化 ・パーク＆ライドでの商業施設 との連携(買い物券など)	・通勤時におけるニーズに合っ たバスダイヤの形成 ・ノーマイカーデーに対する意 識啓発の拡大	

2. 実施結果

(1)参加状況

参加者数

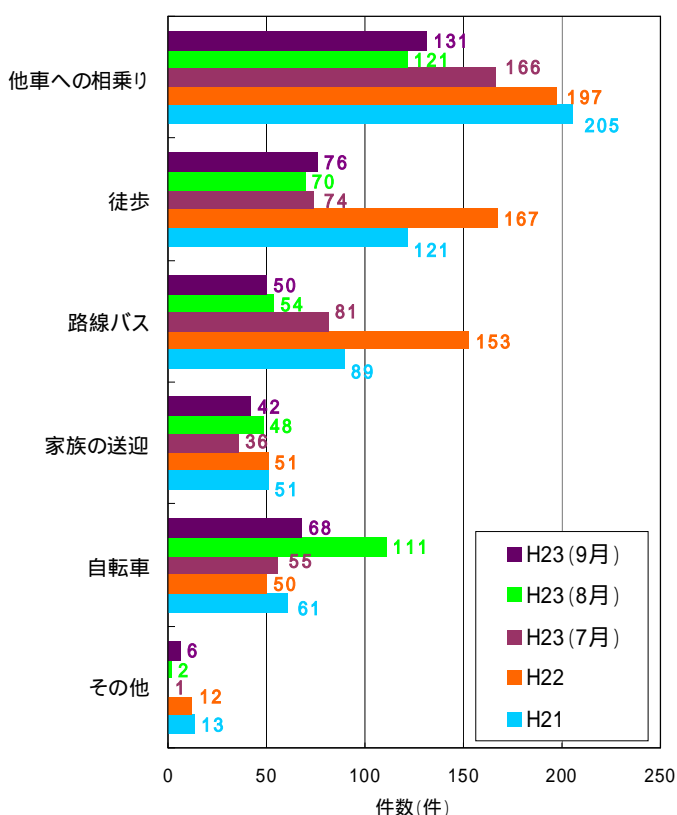
	H21	H22	H23			
			7 月	8 月	9 月	H23 実績
延べ参加者数	650 人	638 人	446 人	428 人	387 人	1,261 人
参加者数	538 人	407 人	286 人	248 人	223 人	449 人
参加企業数	46 社	49 社	20 社	22 社	22 社	29 社
CO2 削減量	1.7 t	1.7 t	1.1 t	0.9 t	0.8 t	2.8 t

曜日別参加状況

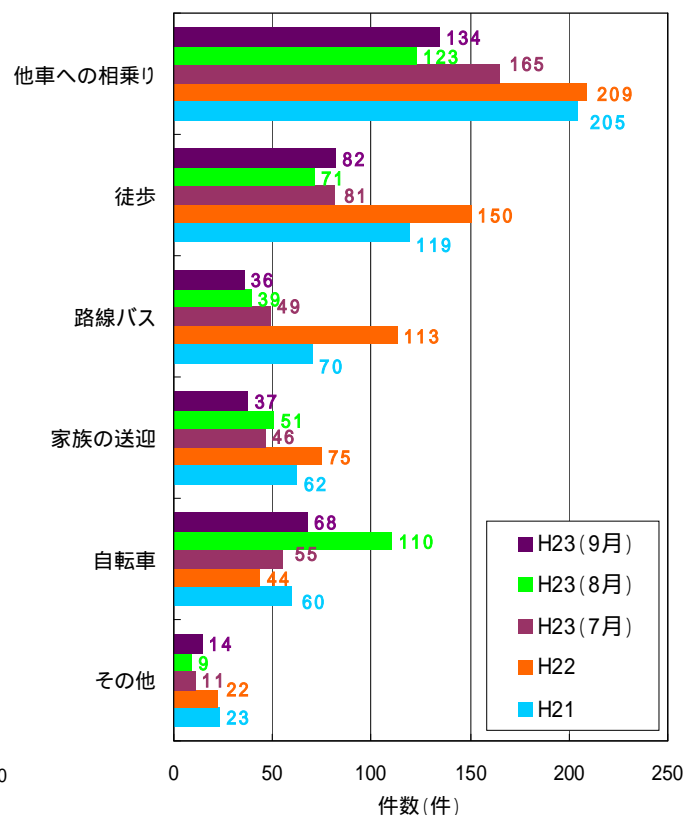
曜日		月	火	水	木	金	土	日
H21			168	177	149	156		
H22		93	104	123	125	139	35	19
H23	7月	152	156	162	149	172	29	
	8月	158	216		165	175	51	40
	9月	117	139	164	160	149		21
平均値 (H21-23)		130.0	156.6	156.5	149.6	158.2	38.3	26.6

(2)交通手段

【利用交通手段（通勤時）】



【利用交通手段（退勤時）】



今年度の参加者は述べ1,261人であった。実施日も過年度と比較し、長かったことも影響し、述べ参加者は増加している。しかし、月別のべ参加数は過年度実績を下回っており、実施期間の拡大が影響したかと推測される。 現在アンケート調査中

曜日別による参加割合は平日に関しては大差がないため、曜日による参加への影響はない。

利用交通手段は、全体を通して、「バス」の利用が少なく、「相乗り」を選択している人が多い状況であった。特に「退勤時」のバスの利用は少ない。

また、「市職員以外」の方は「自転車」、「徒歩」の利用も多く、健康などを気にして運動する機会とした可能性もある。